

野生植物利用に関する 知識変動と近代化の影響

中国海南省リー族の村を事例として

A Study on Responce of Knowledge about Wild Useful Plants to
Modernization : In Li People Village, Hainan, China

戸松あかり

TOMATSU Akari

はじめに

①方法

②結果

③考察

④結論および今後の課題

【論文要旨】

持続可能な社会を目指す近年の潮流の中、生物多様性の保全及び持続的利用に関連する知識は、国際的に脚光を浴びており、その中には野生植物利用に関する知識を含んでいる。各地の地域社会は、周辺環境との動的な関わり合いを通じて、野生植物利用に関する固有の知識を生み出し、保有し続けてきた。ところが近代化によって伝統的知識が消失してきたが、知識消失のプロセスを捉えた研究はほとんど行われていない。

調査対象地は、中国海南省五指山市沖山鎮大平村である。野生植物利用に関する知識は、近代化とともに消失しているが、利用する植物によってその状況が異なることがわかった。薬用に関する「知識」の多くは医療制度の整備時期に消失した可能性が高く、食事の一環として利用される食用に関する「知識」は、市場へのアクセスが向上したことにより減少したことが示唆された。その一方で、除草剤による野生植物個体数の減少が、知識消失の一因となっている状況も推察された。今後は生態学的な調査を知識動態の把握と並行して行うことで、知識動態に野生植物の動態が及ぼす影響の側面からも研究を進め、対象地域における知識消失のメカニズムをより詳細に明らかにすることが望まれる。

【キーワード】 野生植物利用, 伝統的知識の消失, 医療制度, 近代化, 市場